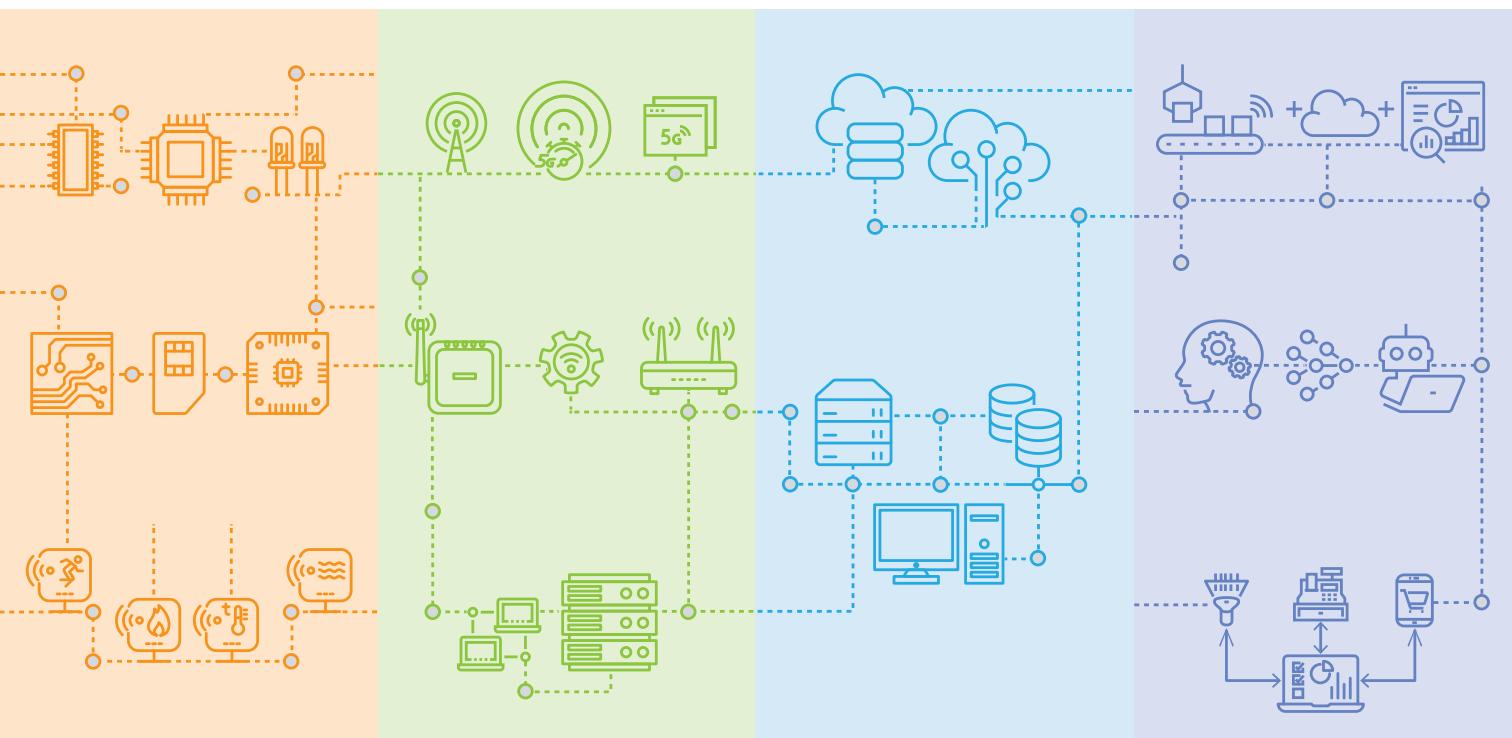


64th BUSINESS REPORT Autumn

RYOYO



菱洋エレクトロ株式会社

証券コード：8068

中間決算のご報告

2023.02.01～2023.07.31

株主の皆様へ

当社第64期ビジネスレポート・秋号をお届けするにあたり、
謹んでご挨拶申し上げます。



これまで事業基盤の立て直しを主として取り組んできた経営改革は、今期より『第2フェーズ』に入りました。新たな成長機会の獲得を確実なものにすべく、当社のビジョンである『お客様の課題やお困りごとを他社よりも早く、優れたやり方で解決させていただく企業』の実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りたく、
何卒よろしくお願いいたします。

2023年9月
代表取締役社長執行役員
中村 守孝

ビジョン

お客様の課題やお困りごとを他社よりも早く、
優れたやり方で解決させていただく企業になる

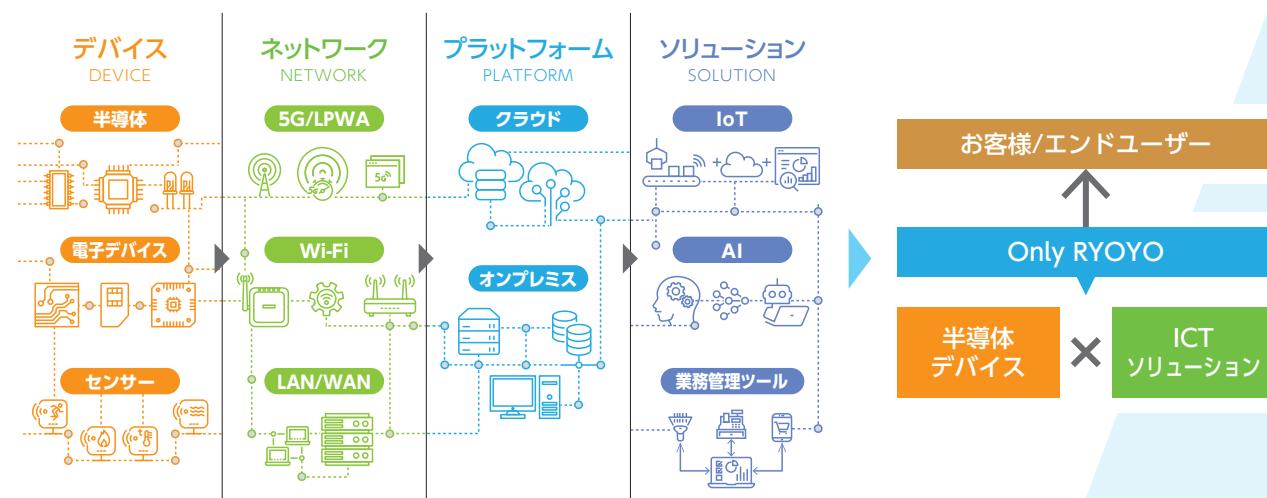
企業スローガン

すべてを、つなげよう。
技術で、発想で。

行動指針

VALUE and PRIDE

エッジからクラウドまで FROM EDGE TO CLOUD



当社グループでは、「半導体/デバイス」と「ICT/ソリューション」を主要事業領域に、エレクトロニクス商社として取り扱う既存製品と当社独自の技術を組み合わせ、「Only RYOYO への挑戦」として付加価値の高いソリューションの創出に取り組んでいます。

当上期の概況

当上期（2023年2月1日～2023年7月31日）における国内経済は、コロナ禍からの経済活動の正常化が一段と進み、企業収益や個人消費の改善が見られるものの、長期化する地政学的リスクを背景とする資源・原材料価格の高止まりや、インフレ抑制に向けた各国の金融政策の引締め、米中間の緊張の高まりなど、海外経済の景気下振れリスクが懸念されるとともに、先行きについては依然として不透明感を色濃く残す状況が続いております。

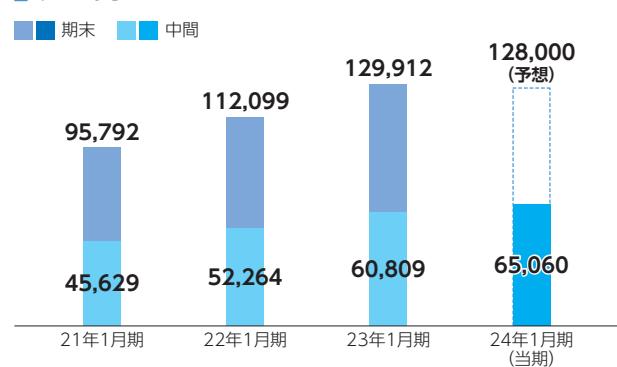
当社グループが属するエレクトロニクス業界におきましては、半導体や電子部品の需給逼迫の状況が一部製品を除いて緩和傾向にある中、一時の旺盛な需要は落ち着きを見せ、調整局面の様相を示しております。一方、ICT分野におきましては、自動化や省人化などを目的としたDX（デジタルトランスフォーメーション）やビジネスモデルの変革に向けた企業のIT関連投資は依然として底堅く、堅調な推移となりました。

このような状況の下、当社グループにおきましては、半導体・デバイス分野でこれまでの好市況の反動が一部で見られるものの、海外におけるテレビ向け案件の拡大やスマートフォン向け案件の立ち上がりが見られ、また、ICT・ソリューション分野では、堅調な企業のIT関連投資を背景に、ハードウェア製品の販売のみならず、それに付随するサービスの提供についても拡大いたしました。

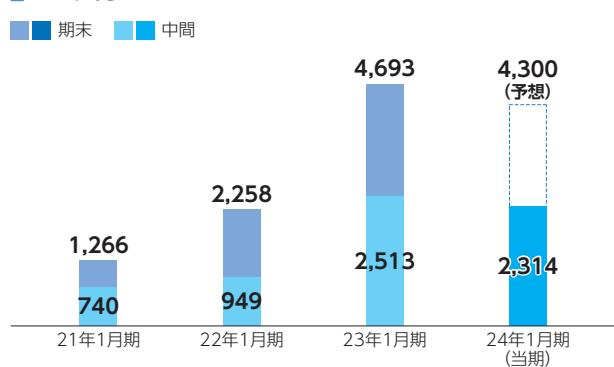
以上の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は650億60百万円（前年同期比7.0%増）となりましたが、前年同期には円安進行に伴う売上総利益の押し上げ効果があったことなどから、営業利益は23億14百万円（前年同期比7.9%減）となりました。また、2023年3月9日付で公表いたしました通り、株式会社リョーサンの持分法適用関連会社化に伴う投資利益を営業外収益として計上し、経常利益は64億94百万円（前年同期比162.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は57億51百万円（前年同期比223.0%増）と、前年同期からの増益幅が拡大いたしました。

財務ハイライト

売上高



営業利益

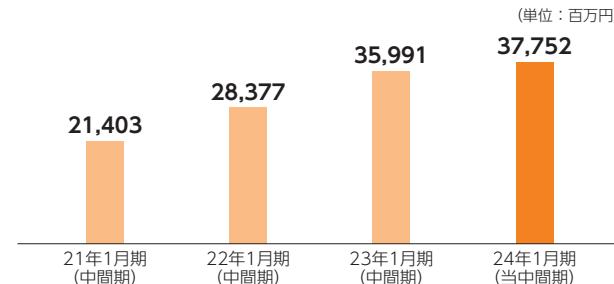
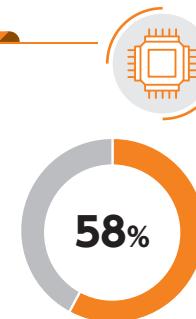


品目別売上高の概況

半導体／デバイス

売上高は377億52百万円で、前年同期より17億61百万円（4.9%）増加しました。

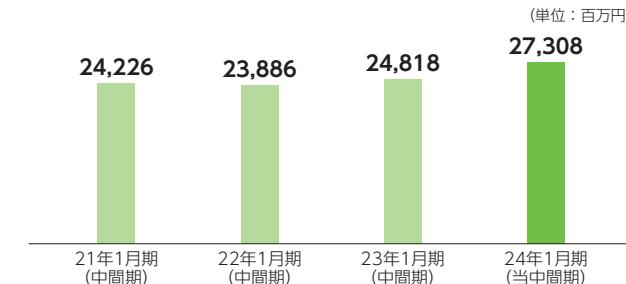
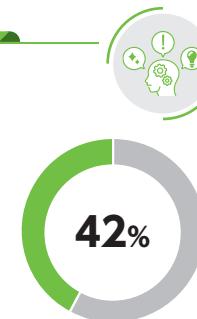
これは、主にデジタル家電向け半導体や通信機器向けデバイスが増加したためです。



ICT／ソリューション

売上高は273億8百万円で、前年同期より24億89百万円（10.0%）増加しました。

これは、主にオンライン資格確認の制度の導入に伴うパソコンやネットワーク製品の販売をはじめとするビジネスが拡大したためです。

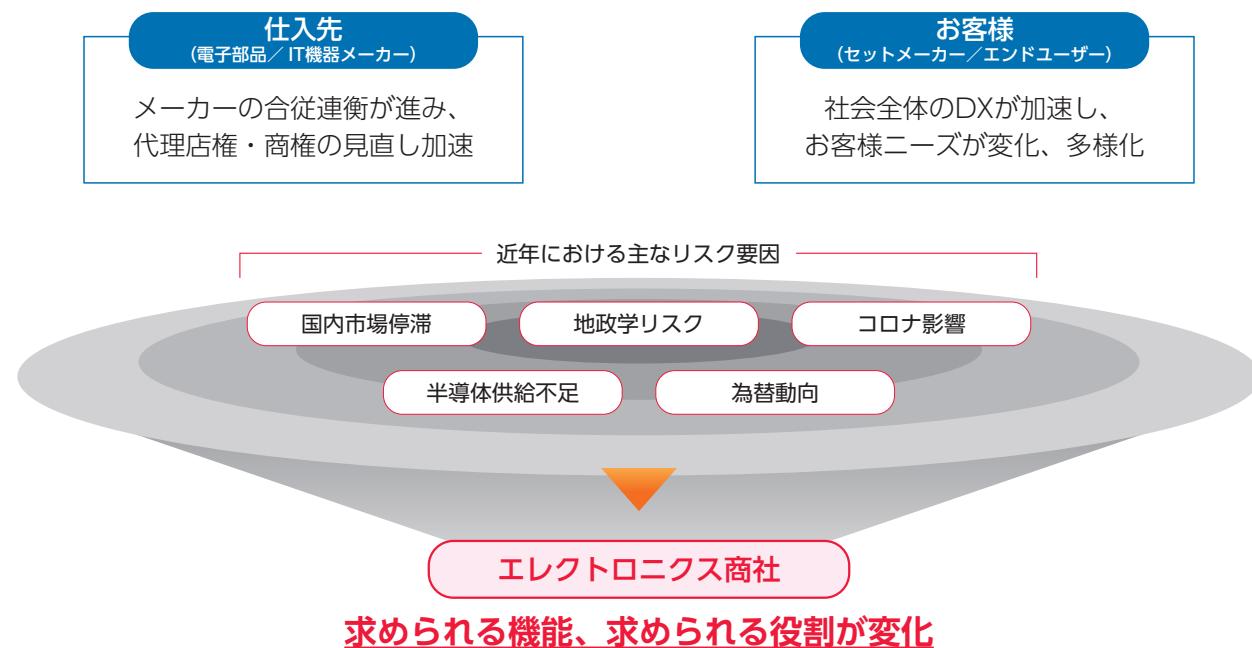


中期的な取り組み

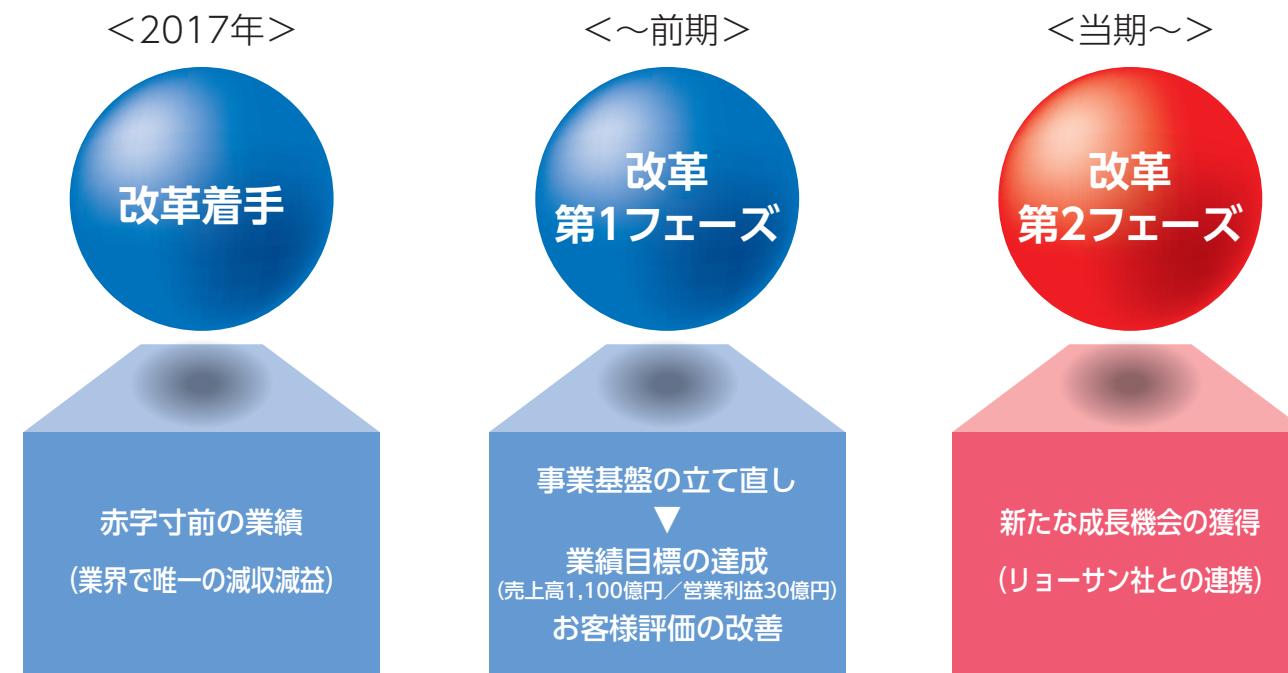
近年、エレクトロニクス業界を取り巻く環境は日々変化しており、当社グループを含むエレクトロニクス商社に求められる機能・役割についても変化が生じています。

このような状況の中、当社グループにおいては、「お客様の課題やお困りごとを他社よりも早く、優れたやり方で解決させていただく企業になる」をビジョンに掲げ、「半導体/デバイス」と「ICT/ソリューション」を事業領域に有する特長を活かすことで、物販中心のビジネスに留まることなく、「お客様ニーズの深掘り」「新たな価値創出」にも注力してまいりました。

▶▶エレクトロニクス商社を取り巻く環境



また、これまでは“内的な充実”を図る改革第1フェーズとして、営業力の強化をはじめとする事業基盤の立て直しに取り組んでまいりましたが、当期からは新たな成長機会の獲得に向けた改革第2フェーズとして、新たな歩みをスタートしています。



2023年5月15日付のプレスリリースで公表いたしました通り、2024年4月を目途とする株式会社リョーサンとの経営統合に向け、協議を進めております。同社との経営統合においては、両社それぞれがこれまでの長年の歴史の中で築いてきた、お客様との良好なリレーションや優良な商材・ソリューションといった経営資源を新たな枠組みの中で最大限に活かすことで、国内エレクトロニクス商社の新たな中核グループとして、企業価値の更なる向上を目指してまいります。

個の価値を高め、強い組織をつくるには



菱洋エレクトロ株式会社 代表取締役社長執行役員 **中村 守孝** 一般社団法人Tリーグ 理事長補佐 **宮崎 義仁** 氏

菱洋エレクトロでは人材を企業成長の柱として捉え、育成と社内風土の改革を通して魅力的な組織づくりを進めています。今回は当社がオフィシャルパートナーを務める日本国内の卓球リーグ「Tリーグ」の理事長補佐で、オリンピック選手を経て日本代表監督としても活躍された宮崎義仁氏と当社社長の中村がチームやリーダーの育成をテーマに対談を行いました。

組織づくりの基礎は、共通の価値観を築くことから

中村 宮崎さんは、長い間卓球界の改革に携わってきましたが、チームをつくるときに意識してきたことはありますか。

宮崎 私が大切にしてきたことは、個々人の人格の成長を促すことです。まず、選手には技術だけではなく、挨拶やマナーなど、社会における当たり前ことから教えます。それが練習に集中できる環境をつくり、チームに一体感が生まれ、やがては成果にもつながります。世界で活躍する選手になるには、超一流の考え方をもちることが大切です。

中村 それは企業経営においても同じです。私が菱洋エ

レクトロに入社した時は、社員同士の挨拶もほとんどなく、明確な目標もなく、縮小均衡で自由もない。組織全体が疲弊していました。そこで、最初に環境を変えるべく着手したことが、ビジョン「お客様の課題やお困りごとを他社よりも早く、優れたやり方で解決させていただく企業になる」、行動指針「VALUE and PRIDE」、仕事における3つの喜び「貢献、協働、賞賛」という共通の価値観を掲げ、社員の目線を統一することでした。そして、その価値観を組織に根付かせ、従業員一人ひとりが行動を変えるように働きかけました。

リーダーの本来の役割とは？

宮崎 行動を変え成果を出すためには、私は自分で考える力も重要だと感じています。練習において、コーチが細かい指示を出しすぎると選手は考えることを忘れ、言われたことを練習するだけになり、自分の得意分野や欠点が見えなくなってしまいます。コーチの役割は、選手を信頼し、黙って見守ることですが、これが中々に難しいのです。ときどき、私も選手と過去の試合動画を集めて一緒に課題を分析しますが、その時に具体的な指摘はしません。本人が気づくための環境、土台を整備することが指導者の役割であるという信念があるからです。強いチームをつくるためには指導者の育成も重要ですが、次期経営リーダー候補の育成という視点では、中村さんはどのような考えをもっていますか。

中村 その点は日々苦労しているところです。現在、次期経営リーダー候補を育成することが私の大きなミッション

ですが、その中で私が最も重視していることが、やはり宮崎さんが言われたように論理的に考える力をもつことです。これがないと本質をとらえた企画の立案や課題の解決ができません。さらに多様な背景や考えをもつメンバーの先頭に立って困難に立ち向かう時にもこうした論理性は大きな力となります。メンバーの多様性を活かすことができないと、最適なチーム組みができず、人材を頭数でしか見られなくなります。これではチームの生産性もモチベーションも上がりません。

そして、もうひとつ大事なリーダーとしての資質は、これら様々なプレッシャーに耐えながら実行する精神的なタフさです。この資質を身につけるためには、なによりもリスクを背負って、自分の責任で決断していくという経験を重ねるしかありません。まだまだ当社の従業員にはその経験が少ないことが今の悩みです。

経験と挑戦が育む精神的タフさは、より強い組織をつくる

宮崎 精神的タフさをもつことは、私が卓球界の立て直しを依頼され、小学生のナショナルチームを立ち上げた際にも重要視しました。卓球は試合に勝つか負けるか、シンプルでシビアな世界です。若いうちから、レベルの高い相手との試合の経験を重ね、厳しい競争環境に身を置くことが、今後世界の強豪と互角に戦っていくためには、不可欠と考えたからです。精神的なタフさは経験によって補える力なので、たくさん乗り越える経験を積んで欲しいですね。こうして成長した個人の力を最大限に活かすチームを組むことで、チームはより強くなります。

企業においても、精神的タフさと、自分や周りを客観視できる論理的な思考力をつける場があれば、そういった経験

が得られるのではないのでしょうか。

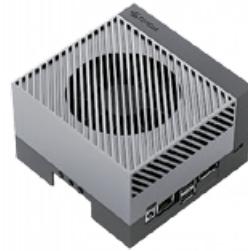
中村 その通りですね。やはりレベルの高い課題に挑戦できる環境を整備してあげることが、企業経営においても重要だと思います。そのために、私は経営者として、簡単には解決できない課題を示し、成果を生んだメンバーが公正に評価され、報われる制度を構築しています。こうしたことで論理性と精神のタフさの双方を鍛えることができ、それが当社の持続的成長にもつながっていくと確信しています。本当にスポーツも経営も共通することが多いですね。宮崎さん、本日はありがとうございました。

トピックス

NVIDIA製品を活用した教育分野への支援

多くの教育機関で最先端のAIツールへの需要が高まっている一方、環境整備には高額な費用がかかるため、思うように研究が進まないという現状があります。当社はNVIDIAの国内代理店唯一の取組みとして、AIの学習・指導に最適なAIコンピューティングプラットフォーム「NVIDIA® Jetson Orin™ シリーズ開発者キット」を、教育機関向けに特別価格(*)で販売しております。学生や研究者、教育機関が抱える課題を打破し、最先端の研究活動を支援することで、社会における高度なAI開発の発展をサポートします。

※特別価格での提供は期間限定です。



障がい者雇用に向けた取り組みを推進

当社は“商社の価値は人にある”という考え方から、重要な経営課題として、ESGに加え「H=人材活用」を特定しています。多様な人材が、生き生きと3つの喜び（貢献・協働・賞賛）を感じながら活躍できる企業を目指し、農園型の障がい者雇用を開始しました。様々な立場の方と交流を重ね、お互いを理解することで、従業員ひとりひとりが持続的に成長できる環境を実現してまいります。

※今後は、農園型雇用だけでなく、直接の雇用も拡大していく予定です。



■農園型の障がい者雇用とは？

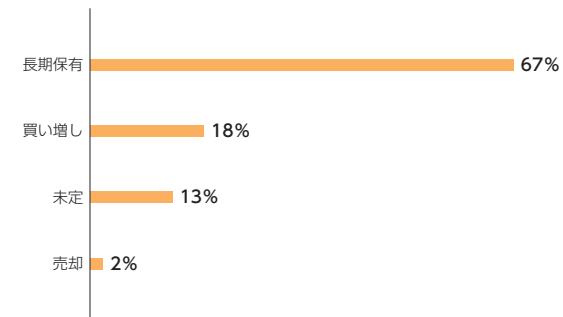
一般就労が難しい方を当社で雇用し、農園所属のスタッフや看護師のサポートのもと、快適な室内環境で水耕栽培に従事します。

IRコミュニケーション

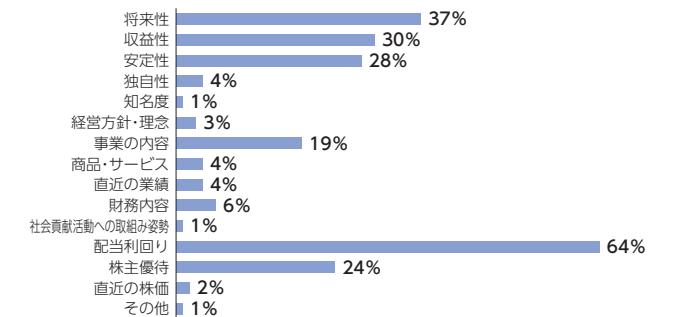
当社では、株主の皆様のお声をお聞かせいただくため、2022年9月にアンケートを実施し、1,140名の株主様からご回答いただきました。本紙面をお借りしてお礼申し上げますとともに、集計結果の一部及びいただいたメッセージをご報告いたします。お寄せいただきました貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の経営やIR活動の参考にさせていただきます。今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

アンケート集計結果(一部)のご紹介

あなたは当社の株式に対してどのような方針をお持ちですか。



充実を期待するIR活動についてお聞かせください(複数回答)。



株主の皆様からのメッセージ

株主様

事業内容や、同業他社と比べた時の差別化ポイントが詳しく知りたい。

当社コメント

当社の一番の特長は半導体/デバイス事業とICT/ソリューション事業をバランスよく手がけていることです。単なる物販に止まらず、豊富な製品・サービスと長年の実績、独自の技術を活かし、お客様のお客様までを見据えた最適なソリューションをお届けしています。具体的な事例は当社コーポレートサイト上でもお客様の声と共にご紹介しておりますので、是非ご覧ください。

事例紹介：

<https://www.ryoyo.co.jp/case/>



その他プレスリリース：

<https://www.ryoyo.co.jp/info/?infoList=products>



株主様

ここ数年、会社は更に良い方向に進んでいるように感じます。これから担う人材育成の方針について教えてください。

当社コメント

「人」は当社にとって、重要な経営資源であると考えています。5年間で教育費を大幅に増やし、階級や職種に沿った研修プログラムを充実させています。また、経営陣や若手問わず「自ら論理的に考える力」「経験から生まれる精神のタフさ」を身につけるべく、社長自らが講師を務める研修も開催しています。

株主様

安定した配当や、更なる増配を期待しています。株主優待の内容をもっと充実させて欲しいです。

当社コメント

配当や株主優待に多くのご関心をいただいていることを改めて認識いたしました。今後の還元策検討の参考にさせていただきます。

株主還元について

配当について

当社は「純資産配当率（DOE）：5%」を目安とした安定的な配当を実施することを基本方針としておりますが、当期につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益が会社設立以来の過去最高益となる見通しであることを踏まえ、以下の計画としております。

		1株当たり配当金			配当性向	DOE
		Q2末	期 末	年 間		
24.1期	(計画)	—	80円	160円	43.1%	6.3%
	(実績)	80円	—	—	—	—
23.1期	(実績)	50円	60円	110円	72.6%	5.1%

株主優待制度について (対象となる株主様への優待品の発送は毎年4月下旬を予定しております)

当社は、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、中長期にわたって多くの方に当社株式を継続して保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入しております。

当制度に変更が生じた場合は、当社コーポレートサイトにてお知らせいたします。

制度の概要

① 対象となる株主様

毎年1月31日時点の株主名簿に記載または記録され、以下のいずれかに該当する株主様を対象といたします。

対象となる株主様	<ul style="list-style-type: none"> ●当社株式を10単元（1,000株）以上保有する株主様 ●当社株式を5単元（500株）以上保有し、かつ、1年以上継続して保有する株主様*
----------	---

*1年以上継続して保有する株主様とは、毎年1月31日時点に基づき、同一株主番号で前年1月31日及び7月31日時点の株主名簿に3回以上連続で記載または記録された株主様といたします。

② 株主優待の内容

「ギフト商品（3,000円相当）」及び「会員限定優待サービス*」

*国内の宿泊施設、レジャー施設、暮らしに役立つライフサポートメニュー等を特別価格でご利用いただける会員限定優待サービスです。

株式の状況

(2023年7月31日現在)

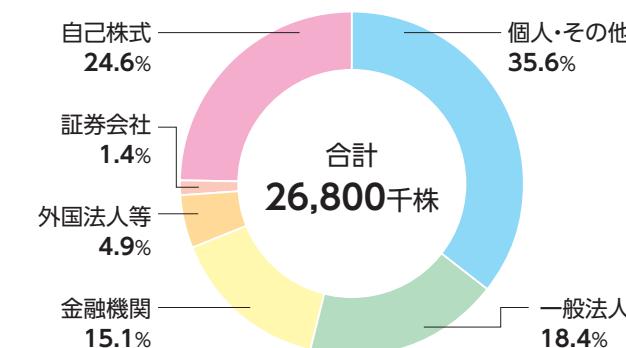
- 発行可能株式総数 119,628,800株
- 発行済株式の総数 26,800,000株
- 株主数 21,926名

■ 大株主（上位10名）

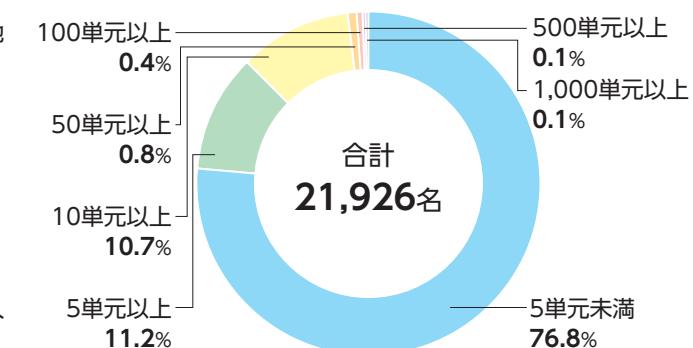
株 主 名	株式数(千株)	持株比率(%)
1. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2,533	12.54
2. エス・エッチ・シー有限公司	2,118	10.48
3. 三菱電機株式会社	1,576	7.80
4. 株式会社日本カストディ銀行（信託口）	584	2.89
5. 株式会社シーブ商会	523	2.59
6. 日本生命保険相互会社	409	2.03
7. 菱洋エレクトロ社員持株会	310	1.54
8. STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	215	1.07
9. 島田義久	211	1.04
10. 大橋洋一郎	206	1.02
合 計 (1~10)	8,689	43.00

(注) 1. 当社は、自己株式を6,588,877株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 所有者別株式分布状況



■ 所有株式数別株主数分布状況



会社の概要 (2023年7月31日現在)

会社データ

商号	菱洋エレクトロ株式会社 (RYOYO ELECTRO CORPORATION)
本店	東京都中央区築地一丁目12番22号
設立	1961年2月27日
資本金	136億7,200万円
従業員数	連結：713名、単体：537名

役員

代表取締役 社長執行役員	中村 守 孝
取締役 常務執行役員	脇 清 佐 野 修
	大橋 充 幸
社外取締役	高田 信 哉 白石 真 澄
	大庭 雅 志
常勤監査役	菅野 博 之
社外監査役	木村 良 二 秋山 和 美
	大井 素 美

株式に関するお手続きについて

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増のご請求は、口座を開設されている証券会社にお問合せください。
なお、当社の単元未満株式の買取および買増請求に係る手数料は無料としております。
(証券会社等で別途手数料が発生する場合がございますので、詳細はお取引の証券会社等へご確認ください)
- 未払配当金のお支払い、特別口座に記録された株式に関する諸手続き、その他株式事務に関する一般的なご質問は、下記へお問合せください。

お問合せ先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレホンセンター	※左記電話番号をご利用いただけない場合 042-204-0303 (通話料有料)
	☎ 0120-232-711 (東京) ☎ 0120-094-777 (大阪)	
受付時間：土・日・祝日等を除く平日9：00～17：00		

国内・海外ネットワーク



株主様アンケートご協力をお願い

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。
(所要時間は5分程度です)

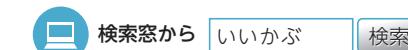
ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です

①下記URLにアクセス ②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示



.....以下の方法でもアンケートにアクセスできます.....



✉ kabu@wjm.jp ←こちらへ空メールを送信
[件名]「本文」は無記入。アンケートのURLが直ちに自動返信されます。

📱 スマートフォンから
カメラ機能でQRコード読み取り→
QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。 <https://www.link-cc.co.jp>

アンケートのお問い合わせ [e-株主リサーチ事務局]
MAIL: info@e-kabunushi.com



菱洋エレクトロは、
「Tリーグ」「東京羽田ヴィッキーズ」「名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」
を応援しています。

菱洋エレクトロ株式会社

〒104-8408
東京都中央区築地一丁目12番22号
(コンワビル)
TEL: 03-3543-7711 (代表)
FAX: 03-3545-3507



この印刷物は、環境に配慮して「森林認証紙」、「植物油インキ」、「有害な廃液を出さない水なし印刷方式」を採用しています。
また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。